**全国盲ろう者団体連絡協議会機関誌**

**第２４号**

**２０１９年１０月１５日発行**

**発行**

**全国盲ろう者団体連絡協議会**

**連絡先**

**〒１１４－００３４**

**東京都北区上十条１－５－１－１０４**

**電話・ＦＡＸ　０３－５９９３―４３９５**

**E-mail　taikyoku194tyakugan@ip.mirai.ne.jp**

**URL　http://tarzans.sakura.ne.jp/jfdb/**

**口座**

**ゆうちょ総合口座**

**記号　１２１７０　番号８５８２４０６１**

**名義　全国盲ろう者団体連絡協議会**

**※機関誌の無断転載を禁じます。**

**全国盲ろう者団体連絡協議会（以下、「連絡協議会」という）**

**全国盲ろう者団体連絡協議会機関誌**

**＜目次＞**

**１．会長挨拶**

**２．第２８回全国盲ろう者大会報告**

**３．連絡協議会活動報告**

**４．連絡協議会の加盟団体**

**５．会計からご案内**

**６．編集後記**

**１．会長挨拶**

**会長　高橋 信行（たかはし のぶゆき）**

**涼風の候、加盟団体の皆様におかれましては益々ご壮健のこととお慶び申し上げます。**

**私などは、１頭目の盲導犬フォリィが引退し、現在２頭目の盲導犬との共同訓練を行っているところです。私が仕事を続けていくためには、どうしても自力で通勤する必要があります。同行援護のような公的支援制度は仕事には使えないというルールがありますから、今のところ私には盲導犬を使う以外の方法はありません。**

**さて、先般、愛知県名古屋市で行われた全国大会の開会式でもご挨拶申し上げました。世界盲ろう者連盟のゲイリー会長からの提案、「ヨーロッパの盲ろう者がシンボルとして用いている紅白白杖を世界中の盲ろう者のシンボルとして使いませんか？」という問いかけについて、連絡協議会が日本の盲ろう者の意見を取りまとめます。**

**全国大会中に設けられた「紅白白杖」ブースには、多くの盲ろう者及び支援者が来られ、アンケートにご協力頂くと共に２枚１組３００円で販売の「紅白白杖」作成用赤色反射テープをご購入頂きました。ありがとうございました。実に１００人以上の盲ろう者がその場でご自身の白杖に赤色反射テープを巻き付け、「紅白白杖」にして帰って行かれたわけです。**

**この様子を見て、私は「日本の盲ろう者はスバラシイ！」と思いました。ゲイリー会長からの提案に対し、実際に自分で購入して試してみて、その上で意見を出す。これは人間として実に正しい反応だと思うからです。ですから、皆さん、どんどん「紅白白杖」を試して頂き、ご意見を出してください。**

**なお、「紅白白杖」作成用赤色反射テープは郵送販売を行っています。ご希望の方は下記アドレスまでお問い合わせください。**

**kouhaku@tarzans.sakura.ne.jp**

**どうか、引き続き連絡協議会にご理解とご協力をよろしくお願い致します。**

**２．第２８回全国盲ろう者大会報告**

**去る８月２３～２５日に名古屋市で開催された第２８回全校盲ろう者大会で連絡協議会が担当したプログラムにういて、報告します。**

**〇開会式**

**担当：大杉 勝則（おおすぎ かつのり）**

**盲ろう者２２０名を含めた６９４名の参加者で開会式が行われました。**

**第１部では、全国盲ろう者協会の真砂靖理事長による主催者挨拶がありました。続いて、厚生労働省、愛知県、名古屋市から、ご祝辞をいただきました。**

**第２部では、連絡協議会の高橋信行会長による共催挨拶がありました。**

**次に、第１０回全国盲ろう者体験文コンクール表彰式が行われました。公益財団法人鉄道弘済会の田尻耕平部長より、４名の盲ろう者に表彰状などが手渡されました。**

**そして、全国盲ろう者協会の新事業、『盲ろう児者の医療アクセスと医療連携を支えるネットワークの構築事業』についてを独立行政法人国立病院機構東京医療センターの松永達雄部長より説明がなされました。**

**最後に、全国盲ろう者協会の山下事務局長より、来年（２０２０年）度の全国盲ろう者大会開催について次のように発表されました。期日は、２０２０年８月２８日（金）～３０日（日）の３日間。場所は、鳥取　　県米子市。**

**再会や新しい出会いで、交流を深めました。そして、たくさんの思い出を作ることができたと思います。**

**この全国大会の楽しさを来年の鳥取で、また味わいましょう！**

**〇第１分科会「全国の盲ろう者の生の声を聞く」**

**担当：石川 隆(いしかわ たかし)**

**毎年恒例となっている第１分科会「全国の盲ろう者の生の声を聞く」では、今回、「派遣制度に関すること」と「その他について（生活上困っていること等）」の２つのテーマに、多くの盲ろう者からの声を出して頂き、解決の糸口を見つけるための意見交換を行いました。**

1. **派遣制度に関すること　質問・回答**

**・同行援護の通訳・介助員の資格の問題についてどのようになってるのか？**

**→２年間厚労省や日盲連などと協議したが、意見がまとまらなかった。厚労省としても、最終的には、何らかの形で１本にまとめて、制度にしなければならない。３年間の特例期間があるが、特例期間を延ばす方向で動いている（協会の山下事務局長から）。**

**・公共交通機関が不便な地域での自家用車の利用を認めて欲しいが、どういう交渉が良いか？**

**→車なら１時間だが、電車だと８時間かかる。車の方が総額の支出が抑えられると県に話をして認めてもらった。**

**・通訳・介助員にチャット（テレビ電話の様なもの）でお願いしているが、通訳・介助員から「チャットで依頼するのはやめてほしい。」と言われた。**

**→直接、通訳・介助員に派遣依頼をするのではなく、派遣事務所から通訳・介助員に連絡してもらうのが良い。**

1. **その他について（生活上困っていること等）**

**質問・回答**

**・難病の等級に関係なく、平等に治療費を補助してほしい。**

**→以前と比較して更に視野狭窄や白濁等が進んで見えづらくなったのならば、改めて受診し、検査の結果、１級や２級の医師の判断が出れば、治療費補助を申請できると思う。**

**→医療費助成について、難病の医療費助成と身体障害者の医療費助成のどちらのことを言っているのかわからない。**

**→難病の医療費の助成は、難病指定された病気の治療費が高額になるので負担を軽減するためのもの。病気の問題なので、身体障害者手帳の認定、等級とは関係ない。（協会の山下事務局長から）**

**・ろう者の同僚から「目が見えないから帰れ」と言われた。**

**→地域のハローワークの中に障害者対応ができる課があるので相談してはどうか。**

**・勤務する会社に障害者の相談窓口がない。窓口のある会社はどんな方法で社内に作ったのか。**

**→私の会社には相談できる窓口があり、社会福祉士に相談する機会を設けている。社員が就労支援を受けている場合、社内の支援者が同席して相談する。そのような制度を会社に要望してはどうか。**

**会場からは多くの質問が出され、様々な意見を聞くことができました。進行をスムーズにする為に、発言者は３分以内に一つのテーマで発言すること、発言の順番は、最初に手を挙げた人に順番の書かれたカードを渡し、その順番で話をしてもらうことなど、注意事項を説明したのでスムーズに行えたと思います。**

**より多くの盲ろう者からの声を聞く為にも、この「全国の盲ろう者の生の声を聞く」分科会は、今後も続けていく必要性を感じました。**

**〇第３分科会「魅力ある機関誌の作り方」**

**担当：古川 竜一郎(ふるかわ りゅういちろう)**

**川口 智子（かわぐち ともこ）**

**参加者は主に各友の会で機関誌の作成にかかわっている方が多かったです。**

**まず、ミニ講演で古川は機関誌を作るにあたって言葉をわかりやすく、楽しく読めるようにインタビューアーの気持ちもくむと面白く読めると話をしました。**

**そして、内容には『あの人この人コーナー』では新規会員さんの紹介、グルメ情報、地域情報(当事者でも楽しめる場所の紹介)で楽しく読めるように工夫をしています。**

**発送には郵便で送ると高くなるので、佐川急便のメール便で送ると約８０～９０円で送れるようになりました。点字版は助成金を活用して点字プリンターをいただけたので、広報部で点訳をして印刷をしています。**

**続いてのミニ講演では、川口から、奈良盲ろう者友の会「やまとの輪」では会報発行の目的は『盲ろう者の事を知ってもらう啓発のため』であると話しました。原稿を依頼して、役員にメールで確認作業、校正までお願いしています。内容は行事に参加した盲ろう者に関することや体験談など。会報作成で重要視していることは、「見やすいレイアウト」で文字の大きさや文字の種類、写真掲載等のルールを決めています。課題も多く、内容がいつも同じになること。印刷場所の予約、発送にかかる郵送代などがあります。**

**ミニ講演が終わった後、参加者から工夫していること大変なことを次のように話していただきました。**

**＜工夫していること＞**

1. **見やすいレイアウト**
2. **盲ろう者が分かりやすい言葉や文章の使用**
3. **墨字、点字版、音声の録音版、メール版を利用する。など読み方が様々なため、読者のニーズに合わせて作成する。**
4. **「墨字版は第３種郵便物定期刊行物協会に年会費等を納めて登録し、申請して1部８円～１０円ほどで発送している。**
5. **点字版は地域の点訳ボランティアにお願いしている。**
6. **メーリングリストの活用**

**＜困っていること＞**

1. **広報部員が足りていない**
2. **印刷作業の場所、印刷費用**
3. **郵送料金が高い。みなさんの工夫を聞きたい。**
4. **時間がなく内容が簡単でいつも同じことの繰り返し**

**が多い。**

**⑤今まで会員が少なかったため会報誌を発行していなかったが、今年から始めようとしている。**

**⑥点字版では写真の情報を載せてほしい。**

**古川自身も司会を担当して今後、会報の作成につながる分科会だったと思います。**

**〇第４分科会「日本版ヘレン・ケラー・ナショナルセンターに期待すること」**

**担当：庵 悟（いおり さとる）**

**アメリカにあるヘレン・ケラー・ナショナルセンターのような盲ろう者に特化した総合リハビリテーションセンターを日本でもできるといいな、と多くの盲ろう者やその家族、関係者が強く望んでいます。そこで、この分科会では各地の盲ろう者からの声を聞いて、センターの早期実現につなげていこうという趣旨で話し合いました。**

**前半は、全国盲ろう者協会の山下事務局長より「日本版ヘレン・ケラー・ナショナルセンター開設に向けて」というテーマで、協会で取り組んできた経緯とセンターーの機能について約３０分間、お話頂いた後、質疑応答を行った。後半は、フロアから地域生活で困っていることやセンターに期待することについて自由に話し合ってもらいました。**

**山下さんからは、センターの機能として、全国各地の友の会、作業所、派遣事業所、支援センターなどとネットワークをつくり、盲ろう児・者のライフステージに応じた支援をしていきたい、、短期の宿泊型生活訓練や専門性の高い人材育成、職業開発、地域への訪問による相談や訓練等の支援ができるようにしたいとのお話がありました。**

**会場からは、独り暮らしの盲ろう者が生活できるグループホームをつくってほしいという意見がありました。協会から現段階では終の棲家としての長期間生活できる施設を作ることは考えていない。各地の友の会で作るのが基本ではないかとの意見でした。**

**また、盲ろう児が学校を卒業した後に学習できる場を作ってほしい、盲ろう児・者の親亡き後の生活を支援してほしい、目と耳だけでなく他にも障害や困難がある盲ろう者への心のケアや在宅医療を整備してほしい等の意見も出ました。**

**今後の大会においても、協会と連絡協議会が連携して日本版ヘレン・ケラー・ナショナルセンターについての夢や希望について、さらに活発な議論が展開できるよう工夫していきたいと思います。**

**〇第５分科会 「盲ろう者にとっての交通バリアフリーを考える」**

**担当：川島 朋亮（かわしま ともあき）**

**門川 紳一郎（かどかわ しんいちろう）**

**今回の「盲ろう者にとっての交通バリアフリー」についてのテーマは初めての企画でしたが、盲ろう者５５名を含めて１８３名の参加があり、この分科会に対する関心の高さが伺えました。**

**とりわけ、日本は２０２０年に東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、 障害者や高齢者が住みやすい街づくりや、交通のバリアフリー化が進んでいます。**

**この分科会で「盲ろう者も安心かつ安全に移動するには何が必要か。」を考えるために、以下のように進めました。**

**・最初に分科会担当の川島から交通バリアフリーに関する法律と現状についての基調講演を行いました。**

**・続いて４名の盲ろう者から、下記の３つを柱について事例報告をしていただきました。**

**①交通面で不安、不便に感じていること、困っていることについて**

**②その問題を解消するためにどのような工夫をしているか**

**③交通バリアフリーに対して盲ろう者として望むことは何か**

**・最後の質疑応答と意見交換では、参加者から多くの質問や意見が出されました。**

**中でも、横断歩道等の安全な歩行については、特に関心が高かったように思います。**

**（質疑応答・意見交換の主な内容）**

**①スマホのアプリやパームソナー（障害物探知器）等を活用して信号機が付いている道路を横断したり、街の中を歩いているという報告がありました。**

**それに対して、連絡協議会の高橋会長から「パームソナーについてはすでに製造が中止されている。盲ろう者にとって使いやすいものが少なくなってきている。」とのコメントがありました。**

**そのことから「盲ろう者が使いやすいアプリや支援機器の開発を望む」という声が聞かれました。**

**②「横断歩道をまっすぐ安全に渡るにはどうすればよいか？」という質問に対して、川島から「場所が限られているが、エスコートゾーン（視覚障害者が横断する際に歩く方向から外れることのないように横断歩道上に設置された突起物の列）が設置されているところがある。エスコートゾーンをたどって真っ直ぐ歩くことができる」とアドバイスしました。**

**③盲導犬ユーザーである高橋会長から、「盲導犬の非服従機能というのがある。これは、ユーザーが犬に対して『進め』と指示を出しても車が来た際に、犬が危険を察知したら進もうとしないというもの。これを盲ろう者がうまく使って、真っ直ぐ安全に横断する方法もある」とコメントがありました。**

**④全盲ろうで単独歩行をされている盲ろう者からは、「横断歩道などでは、 『すみません！』などと自分から声を出して周りの人に助けてもらっている。周囲に依頼することも大切。」との報告がありました。**

**今回は、主に都市部の交通が発達している地域で暮らす盲ろう者たちからの事例報告に基づいて進められましたが、今後、山間部や沿岸部に住む盲ろう者からも体験談や要望を聞き、盲ろう者にとっての交通バリアフリーについて考える機会があればよいと思います。**

**〇第６分科会「芸能披露」**

**担当：小林 功治(こばやし こうじ)**

**前回の千葉大会でも行われました。ねらいは前回同様、地元で自分の芸をなかなか披露する機会がない盲ろう者に、全国の仲間・支援者の前で思う存分芸を披露していただくこと、またそれを見た観覧者が「私もがんばればできるかも？！何かやってみよう！」という気持ちになっていただく願いも込めたものでした。**

**出演は８の個人・グループで、全国７都道府県から集まりました。　演目は下記の通りです。**

1. **手話歌**
2. **なるこを使ったオリジナル踊り**
3. **コント**
4. **電子楽器での曲作り・生演奏**
5. **目隠しをしての粘土作品作り**
6. **手話落語**
7. **マジックとジャンケン体操**
8. **フラダンスと生演奏**

**すべての出演者が１０分の制限時間の中、通訳・介助を受けながら、すばらしい芸を披露し、観覧席は手拍子、笑い、応援する声、歌い踊る姿が続き、出演者と観客が一体となった分科会となりました。**

**この分科会は、当日のステージだけでなく、みなさんからは見えない、出演申込からパンフレット掲載文章作り、シナリオ考案、当日の舞台準備・後片付けまでを、盲ろう者と通訳・介助員が共に動いています。演技を披露する盲ろう者だけでなく、それを支える通訳・介助員の輝きを、担当者として昨年以上に感じました。**

**この分科会がまた来年、鳥取でも開かれ、盲ろう者・通訳・介助員のご活躍を願っています。**

**〇第７分科会「地域拠点の取り組み～盲ろう者支援センター等」**

**担当：藤鹿 一之（ふじしか かずゆき）**

**現在、４７都道府県すべてに盲ろう者友の会（準備会を含む）があります。**

**しかしながら、盲ろう者の支援の拠点となる、盲ろう者支援センター等の施設は、ごくわずかな地域にしかありません。**

**盲ろう者支援センター等の施設を、全国各地に設立させるためには、まずは、盲ろう者が盲ろう者支援センター等でどのようなことを行っているのか、知ることが大切です。**

**そこで、大阪のＮＰＯ法人ヘレンケラー自立支援センター「すまいる」理事長の門川紳一郎さんと、兵庫盲ろう者支援センターの平井裕子さん（兵庫盲ろう者友の会・事務局長）より施設設立の経緯から、現在、取り組んでいることまで話していただきました。**

**①兵庫盲ろう者支援センターの取り組み**

**「いつでも集まれる、いつでも相談できる場所が欲しい！」。**

**盲ろう者の切実な願いであったが、「拠点が欲しい」だけでは夢は実現しません。**

**そこで、支援センターを設立する目的、運営方法、資金の集め方等、明確にするため、実行委員会を設立し、理事の学習会を開いたとのこと。**

**その後、県の障碍者支援課に設立に向けて説明し、応援していただけることになり、平成２８年の９月に「兵庫盲ろう者支援センター」が設立。**

**支援センターでは、さまざまな事業を行っているようですが、その中で注目すべき事業は、「ランチの会」と「カフェ・タッチ」ではないでしょうか。いずれも、可能な限り、盲ろう者が関わることにより、新たな体験を通し、自信につながっています。**

**同時に、積極的に、地域の人々との交流も行っているようです。「カフェ・タッチ」の目玉のメニュー、カレーは、「美味しい！」と大好評のようです。**

**そして、支援センターが設立された頃より、盲ろう者が元気になり、理解者が増えたようです。**

**②ＮＰＯ法人ヘレンケラー自立支援センター「すまいる」の取り組み**

**兵庫盲ろう者支援センターと同様、「すまいる」も、設立の発端は、「集まれる場所が欲しい」という、盲ろう者からの願いだったようです。**

**「すまいる」は、１９９９年、マンションの１室を借り、障碍者小規模作業所として活動を開始します。**

**２００１年には、日本で初のＮＰＯ法人格を取得。**

**その後、就労継続支援Ｂ型事業、ホームヘルパー派遣、同行援護事業等、先駆的な取り組みを行っていますが、その道のりは、決しく順風満帆ではなかったようです。**

**そして、２０１７年の２月に、盲ろう者が共同生活をする場として、グループホーム「ミッキーハウス」が設立されました。**

**日本初の盲ろう者向けグループホームの誕生です！**

**このグループホームは、盲ろう者が安心して暮らせるよう、様々な配慮がなされています。**

**資金難等、課題も山積しているようですが、今後の、ミッキーハウスの運営の仕方等に注目しましょう。**

**お二人に講演していただいた後、活気的な質疑応答が行われました。**

**全国各地に盲ろう者支援センターのような地域拠点を設立させるためには、まず盲ろう者が地域拠点の必要性を認識することが重要です。そして、行政や支援者の力を借りて、「すまいる」や兵庫盲ろう者支援センターのような、盲ろうに特化した、地域拠点の設立に向けて、少しずつ前進していければと願っています。**

**３．連絡協議会の活動報告**

**２０１９年４月１５日以降、以下の活動を行いました。**

**・４月１５日（月）**

**機関誌第２３号発行**

**・６月１５日(土)**

**メールマガジン第４１号発行**

**・６月３０日(日)**

**２０１９年度第１回役員会**

**・７月２日(火)**

**ＪＤＦからのアンケート「東京パラリンピックに関する障害当事者の意識調査」のご協力のお願いメール配信**

**・７月４日(木)**

**第１０回全国盲ろう者体験文コンクール」審査会出席(川口編集担当)**

**・８月１５日(木)**

**メールマガジン第４２号発行**

**・８月２３日(金)～２５日（日）**

**全国盲ろう者大会の企画運営(名古屋市国際会議場)**

**・９月８日（日）**

**第２９回全国盲ろう者大会の分科会のテーマおよび担当の募集メール配信(未加盟団体も含む)**

**その他、内閣府障害者政策委員会、聴覚障害者制度改革推進中央本部、日本障害フォーラム等の各種会議に、盲ろうの代表として全国盲ろう者協会の名前で出席し、意見書提出等に取り組みました。**

**４．連絡協議会の加盟団体**

**現在、加盟しているのは、以下の３７団体です。**

**・札幌盲ろう者福祉協会**

**・岩手盲ろう者友の会**

**・山形県盲ろう者友の会**

**・栃木盲ろう者友の会「ひばり」**

**・ＮＰＯ法人群馬盲ろう者つるの会**

**・埼玉盲ろう者友の会**

**・ＮＰＯ法人千葉盲ろう者友の会**

**・認定ＮＰＯ法人東京盲ろう者友の会**

**・神奈川盲ろう者ゆりの会**

**・新潟盲ろう者友の会**

**・富山盲ろう者友の会**

**・石川盲ろう者友の会**

**・岐阜盲ろう者友の会**

**・静岡盲ろう者友の会**

**・ＮＰＯ法人愛知盲ろう者友の会**

**・三重盲ろう者きらりの会**

**・ＮＰＯ法人しが盲ろう者友の会**

**・京都盲ろう者ほほえみの会**

**・ＮＰＯ法人大阪盲ろう者友の会**

**・ＮＰＯ法人ヘレンケラー自立支援センター「すまいる」**

**・ＮＰＯ法人兵庫盲ろう者友の会**

**・ＮＰＯ法人和歌山盲ろう者友の会**

**・奈良盲ろう者友の会「やまとの輪」**

**・鳥取盲ろう者友の会**

**・岡山盲ろう者友の会**

**・ＮＰＯ法人広島盲ろう者友の会**

**・山口盲ろう者友の会**

**・徳島盲ろう者友の会**

**・香川盲ろう者友の会**

**・ＮＰＯ法人えひめ盲ろう者友の会**

**・高知県盲ろう者友の会**

**・福岡盲ろう者友の会**

**・長崎盲ろう者友の会「あかり」**

**・熊本盲ろう者夢の会**

**・大分盲ろう者友の会**

**・ＮＰＯ法人鹿児島県盲ろう者友の会いぶき**

**・沖縄盲ろう者友の会**

**５．会計からご案内**

**会計担当　　石川 隆**

**２０１９年度の会費納入のご案内を申し上げます。下記の通り、会費の納入をお願いいたします。**

**記**

**・会費　１万円**

**・金融機関　ゆうちょ銀行**

**・口座番号　１２１７０－８５８２４０６１**

**・口座名義　全国盲ろう者団体連絡協議会**

**・納入期限　２０１９年１０月３１日（木）**

**ご注意**

**・手数料はご負担ください。**

**・個人名でなく団体名義で振り込んでください。**

**・特定非営利活動法人やＮＰＯは省いてください。**

**・振リ込み済み通知書を領収証とします。大切に保管してください。**

**・期限内納入のご協力をお願いいたします。**

**６．編集後記**

**加盟団体の皆様、こんにちは。**

**今回の機関誌作成を担当しています、長崎の古川竜一郎です。初心者なので皆様、優しくしてくださいね～(笑)。**

**さて、今年の夏、久しぶりに参加した全国盲ろう者大会では久しぶりの方、初めてお会いする方との出会いがありました。そして、初めて分科会の司会を担当しました。緊張で汗いっぱいかきました。しかし、家に帰り体重を測ると1キロ増(笑)。来年は鳥取での開催。またたくさんの方との出会いがあるといいな**～。